


「内貨転用」と「CRU」を 組合わせた取組み事例の ご紹介



 濃飛倉庫運輸株式会社

<http://www.nohhi.co.jp>

平成28年9月16日



取組みを行うに至った背景と目的

■ 株式会社しまむら

- ・ 改正省エネ法特定荷主（取扱物量が多大）
- ・ 将来的なトラック乗務員不足による輸送力安定化対策
- ・ CSR

■ 濃飛倉庫運輸株式会社

- ・ 輸入デバン後に空になった海上コンテナ年間1000本以上の再利用
- ・ しまむらに対する継続的な物流改善提案の必要性

■ 日本フレートライナー株式会社

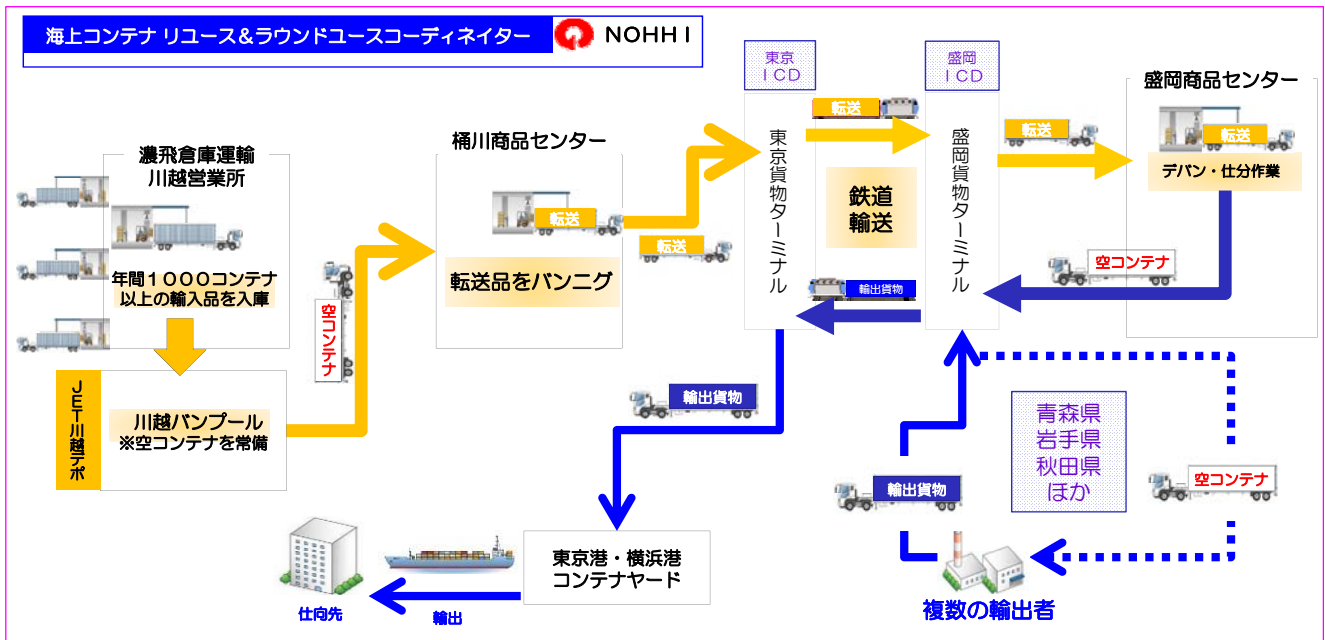
- ・ 海上コンテナ専用列車の積載率向上
- ・ 東北地方の輸出者とのラウンドユースマッチング率向上

■ 日本高速輸送株式会社

- ・ 輸入デバン後に空になった海上コンテナの再利用
- ・ 乗務員の労働環境改善

取組みの概要とCRUのフロー

■濃飛倉庫運輸川越営業所にてデバン後にJ E T川越デポに常備する空コンテナを桶川商品センターで「リユースコンテナ」として「盛岡商品センターへの転送に活用」する一連の流れ。盛岡商品センターでデバン後の空コンテナは東北地方の複数の輸出者が輸出用コンテナとしてラウンドユースする



しまむら、輸出者、物流業者のチームプレーによるCRU

成立のポイント

外部環境の活用	ロケーション	①川越インランドデポが国内転用の「発地しまむら桶川」付近 ②盛岡インランドデポが国内転用の「着地しまむら盛岡」付近
	インランドコンテナデポ	「川越デポ」と「盛岡デポ」の2箇所を活用した取組み
	コンテナ	輸入デバン後に利用するコンテナが常時高品質・本数が安定
	海上コンテナ専用列車	①40FHQ積載が可能 ②東京貨物(夕)発送日の翌日早朝には盛岡貨物(夕)に到着
内部努力	関係各社の歩み寄り	①しまむら バンニング・デバンニング作業を自営化 ②日本フレートライナー 輸出マッチング不成立リスク受入れ ③J E T デポ契約船会社と連動したデポ利用融通
支援	補助金による後押し	①国土交通省 H27年度モーダルシフト等推進事業認定 ②埼玉県 SCRデータ取得費用
幹事	トータルコーディネイト	関係各社がオールウィンとなる調整 物流のコスト×スピード×品質にCSRをプラス

内貨転用の課題について

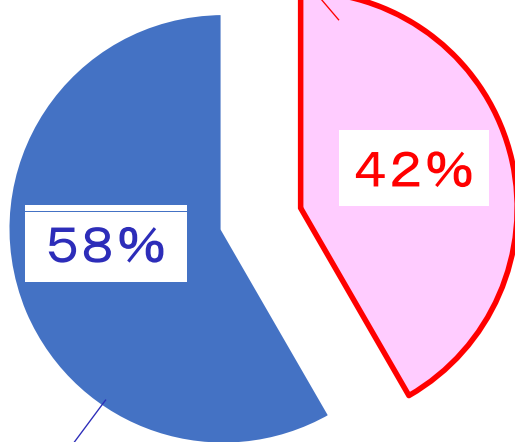
	課題	期待
現状	<ul style="list-style-type: none"> 国内輸送はトラックが主体。 海コン内貨転用は広がらない。 	<ul style="list-style-type: none"> トラックに頼りすぎる国内輸送モードに問題意識。 海コン内貨転用を組合せた輸送力の多様化が広く世の中に浸透。
荷主	<ul style="list-style-type: none"> トラックによる輸送であれば荷役作業は乗務員が行うもの。 国内輸送に「今」は困っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 海コン内貨転用の際の荷役作業を自ら行う。 将来の対策を「今のうちに」検討実施。
ドライバー	<ul style="list-style-type: none"> ドレージは輸出入に伴う輸送。 乗務員は荷役作業を行わない。 	<ul style="list-style-type: none"> 輸出入に伴う輸送の枠を取り払う。 荷役作業を荷主と一緒に取り組む。
コスト	<ul style="list-style-type: none"> 輸送距離に応じた変動費が一般的。 同一車種、同一コンテナの際、積載物量に応じて変動しない。 	<ul style="list-style-type: none"> 輸送距離と積載物量に応じた変動費を全関係者の共通認識のもとに設定。

埼玉県CRU協議会では積極的な意見・情報交換の中で課題解決の方法や先進的な取組み事例について協議されています。

埼玉県ではご興味のある企業様の当協議会への参加を募集しております。

今後の取組みについて

しまむら
2017年度利用計画
年間100コンテナ



年間
140コンテナ
の利用者を
募集中

海上コンテナ40FHQのAグレードを関東⇄東北で年間240コンテナ国内転用できる物流サービス。
(2016年9月時点)

しまむらの事業計画では同サービスの利用は今後緩やかに向上する見込み。

そこで現在、しまむら以外に同サービスをご利用頂ける企業を広く募集しています。

関東から東北への国内輸送についてお困りの方はお気軽にお声がけ下さい。

幅広いご要望にお応えできるようなサービスメニューを鋭意検討しております。

お問合せ窓口

本日は貴重なお時間をいただき誠にありがとうございました。

ご不明な点などのお問合せはご遠慮なくお申し付け下さい。

柔軟・積極的に対応を検討させていただきます。

ご検討いただける場合には、**費用負担の非常に少ない**

テスト輸送のキャンペーンも合わせてご案内させていただきます。

お問合せ窓口

濃飛倉庫運輸株式会社

営業開発部 営業企画課(東京駐在)

担当：市川尚史

TEL：03-3273-5851

E-mail：takashi.ichikawa@nohhi.co.jp

